

高静圧ダクト形外気処理ユニット(吹出温度制御) 据付工事説明書

PJD012D046A

▲

本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。
本機はリモコンでの温度設定範囲が冷房、暖房共10～3.0℃となりますが1.0℃～1.4℃では、使用しないでください。
電気箱の据付説明書の裏面の㊹リモコンでの温度下限設定方法により、“1.5℃下限設定”をしてください。
加湿器の給水配管及び排水配管の施工については加湿器に付属の施工要領（天板上にテープで固定して添付）をご覧ください。
電気配線(室内)は、電気配線工事説明書をご覧ください。リモコンの取付方法は、リモコン付属の説明書をご覧ください。ワイヤレスキットの取付方法は、ワイヤレスキット付属の説明書をご覧ください。
室外ユニットの据付方法、電気配線（室外）及び冷媒配管工事方法は、室外ユニットの付属の説明書をご覧ください。
また、故障診断は、室内ユニットの結線銘板をご覧ください。
本機はコントロールボックス内に内蔵のファンコントローラのボリュームにより連続的に風量を調節することができます。

安全上のご注意

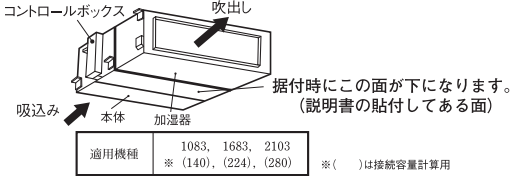
- 据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
- ここに示した注意事項は、**〔注意〕**、**〔注意〕**に区分していますが、誤った据付けをした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に**〔注意〕**の欄にまとめて記載しています。しかし、**〔注意〕**の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- ここで使われる“図記号”の意味は右のとおりです。**〔○〕** 絶対に行わない **〔●〕** 必ず指示に従い行う
- 据付工事後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法、お手入れの仕方（エアフィルタの清掃、運転操作の仕方、温度調節の方法など）をお客様に説明してください。この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などをお渡しいただくよう依頼してください。

▲警告

- 据付けは、お買い上げの販売店又は専門業者に依頼する。
ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、ユニット落下によるケガの原因になります。
- 据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。
据付けに不備があると破裂・ケガの原因となり、また水漏れや感電・火災などの原因になります。
- 小部屋に据付ける場合は万一冷媒が漏れても、限界温度を超えない対策をする。(JRA GL-13)
限界温度を超えない対策については、販売店と相談して据付けを。万一、冷媒が漏洩して限界温度を超えると酸欠事故の原因になります。
- 設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。
当社指定の部品を使用しないと、ユニット落下、水漏れ、火災、感電などの原因になります。
- 作業中に冷媒が漏れた場合は換気をする。
冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 据付けは、重量に十分耐える所に確実に行う。
強度が不足している場合は、ユニットの落下などにより、ケガの原因になります。
- 台風などの強風、地震に備え、所定の据付工事を行う。
据付工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になります。
- エアコンの設置や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒（R410A）以外の空気などを入れない。
空気などが混入すると冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」・「内線規程」及び据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力か伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。
- 室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。
カバーの取付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災、感電などの原因になります。
- 据付工事後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。
冷媒が室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 配管、フレアナット、工具はR410A専用のものを使用する。
既存（R22）の部材を使用すると、機器の故障と同時に冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因になります。
- フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締付ける。
フレアナットの締付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になります。
- ドレン配管はイオウ系ガス等有毒ガスの発生する排水溝に直接入れない。
室内に有毒ガスが侵入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。また、室内機を腐食させ、故障や冷媒漏れの原因になります。
- 据付作業では圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取付ける。
冷媒配管を取付けておらず、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
- ポンプダウン作業では、サービスバルブを閉じた後配管を外す前に圧縮機を停止する。
圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管をはずすと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
- オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取り付けは専門業者に依頼する。
ご自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。
- 改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。
修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
- エアコンを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。
据付けに不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
- 室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ずOFFする。
点検・修理にあたって、電源ブレーカがONのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。
- パネルやガードを外した状態で運転しない。
機器の回転部、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。
- 元電源を切った後に電気工事を行う。
感電、故障や動作不良の原因になります。



- 本機は高静圧ダクト機です。
直吹きでは使用しないでください。



①据付のまえに

- 据付はこの据付け説明書に従って正しく行ってください。
 - 次の項目を確認してください。
 - 機種・電源仕様
 - 配管・配線・小物部品
 - 付属品
 - ①ドレン配管用
 - ②フレアナット部断熱用（1083のみ）
 - ③配線規格用
- 付属品収納場所（梱包時）
-

②室内ユニットの据付場所の選定

- ①据付場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
 - ・冷風または温風が十分に行きわたる所。据付高さが3mを超えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をご指導ください。
 - ・据付・サービス時の作業スペースが確保できる所。
 - ・ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとれる所。
 - ・吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
 - ・侵入外気の影響のない所。
 - ・直射日光の当たらない所。
 - ・周囲の露点温度が2.8℃以下、相対湿度8.0％以下の所。
 - 本ユニットはJIS露点条件にて試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、ユニット周囲が上記条件以上の高湿度・高湿度の状態では運転すると水滴が落下する恐れがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合は、ユニット本体の全ておよび配管、ドレン配管にさらに10～2.0mmの断熱材を取付けてください。
 - ・テレビ、ラジオより1m以上離れた所。(映像の乱れや雑音が生じることがあります。)
 - ・ユニット真下に食品・食器やパソコン・サーバー、医療機器等濡れて困るものを置かない所。
 - ・調理器具が発する熱の影響を受けない所。
 - ・フライヤーの真上など油・粉・蒸気等を直接吸込まない所。
 - ・加湿器への給水が出来る所
- ②据付けようとする場所がユニット重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思ったら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。強度不足の場合は、ユニット落下によるケガの原因になります。

室内ユニット据付スペース

●据付高さは2.5m以上としてください。

平面図（単位：mm）

正面図（単位：mm）

（単位：mm）

天井フットロ	通常据付
A ※1 0-20	※3 300
B ※2 120	※4 200(120)

※1. 0～20のスペースで対応した場合はダクト上部の中心部のネジが締め付けられないのと、何らかの理由でダクトを外す時もダクト上部の中心部のネジが外せません。対応として短ダクトを下で付けてからユニットを吊り込んでください。又ドレンアップ高さは天井フットロに収まるよう調整ください。(少し余裕をみるとドレンアップ高さは300mmが限界です。)

※2. ドレンアップセットがユニット下面より110mm出ますので少し余裕をみて120mmとしています。

※3. ダクト上部の中心部のネジの取り外しのために腕が入るスペースとして300mmとしています。

※4. 自然排水時のドレン勾配用のスペースとして200mmとしています。(断圧対応のトラップ分を含む) ドレンアップセット仕様の場合は() 寸法の120mmとしています。

空気条件・風量 (50Hz/60Hz)

	定格風量		吸込空気温度
	下限	上限	
1083	18/18 (m³/min) 1080/1080 (m³/h)	21.5/21.5 (m³/min) 1290/1290 (m³/h)	冷房時 0℃～43℃DB (18℃DB以下は送風)
1683	28/28 (m³/min) 1680/1680 (m³/h)	34/34 (m³/min) 2040/2040 (m³/h)	暖房時 -5～20℃DB
2103	35/35 (m³/min) 2100/2100 (m³/h)	40/40 (m³/min) 2400/2400 (m³/h)	

くわしくは弊社発行の技術資料を参照願います。



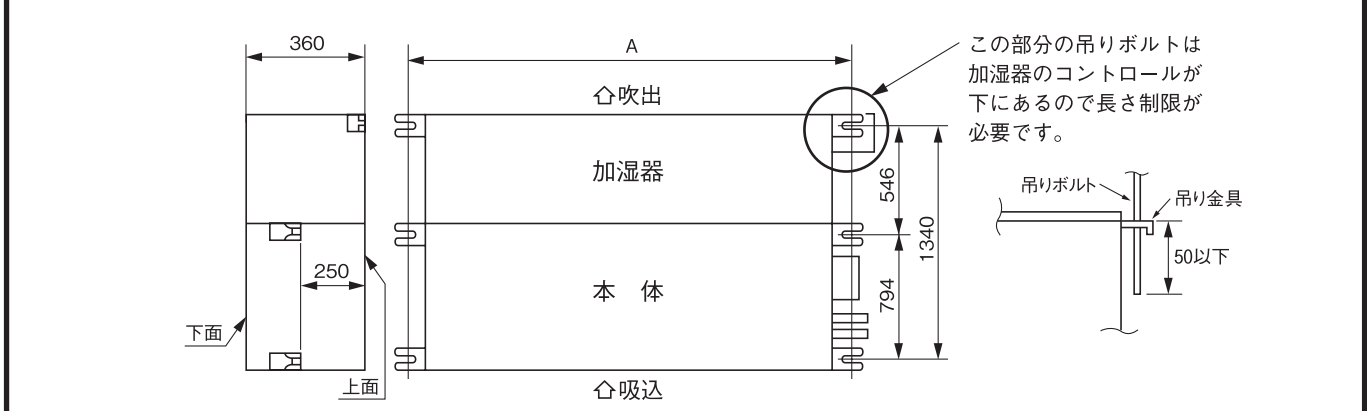
▲注意

- アース（接地）を確実に行う。
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電や火災の原因になることがあります。
- 漏電遮断器は必ず取り付け。
漏電遮断器が取り付けられていないと感電や火災の原因になることがあります。
- 正しい容量の全極遮断するブレーカ（漏電遮断器・手元開閉器（開閉器＋B種ヒューズ）・配線遮断器）を使用する。
不適切な容量のブレーカを使用すると故障や火災の原因になることがあります。
- 正しい容量のヒューズ以外は使用しない。
針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。
- 可燃性ガスの漏れる恐れのある場所への設置は行わない。
万が一ガスがユニットの周囲に漏ると、発火の原因になることがあります。
- 腐食性ガス（亜硫酸ガスなど）、可燃性ガス（シンナー、ガソリンなど）の発生、滞留の可能性のある所、揮発性引火物を取扱う所での据付け、使用は行わない。
熱交の腐食、プラスチック部品の破損などの原因になることがあります。また可燃性ガスは発火の原因になることがあります。
- 工事、点検、メンテナンス作業のための規定のスペースを確保してください。
スペースが不足する場合は、設置場所からの転落によるケガの原因になることがあります。
- 洗濯室など、水の掛かる所では使用しない。
室内ユニットは水の浸入に対する保護はしていません。水が掛かると感電、火災などの原因になることがあります。
- 食品・動植物・精密機器・美術品の保存など特殊用途には使用しない。
保存物の品質低下などの原因になることがあります。
- 病院、通信事業所などの電磁波を発生する機器、高周波の発生する機器の近くでは据付け、使用しない。
インバータ機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器の影響によるエアコンの誤作動や故障の原因になったり、エアコン側から医療機器あるいは通信機器へ影響を与え人体の医療行為を妨けたり、映像放送の乱れや雑音など弊害の原因になることがあります。
- 直射日光の当たる所にリモコンを設置しない。
リモコンの故障や変形の原因になることがあります。
- 次の場所への据付けは避ける。
 - ・可燃性ガスの漏れる恐れがある所
 - ・硫黄系ガス・塩素系ガス・酸・アルカリ・アンモニアなど、機器に影響する物質の発生する所
 - ・油の飛沫や蒸気が多い所（調理場、機械工場など）
 - ・高周波を発生する機械を使用する所
 - ・海浜地区等塩分の多い所
 - ・性能を著しく低下させたり、部品が腐食、破損したりする原因になることがあります。
- 次の場所への室内機の据付は避ける。（機種により異なる制限があるので、その指示に従うこと）。
 - ・吸込口、吹出口に風の障害物がある所
 - ・強度が十分で振動が発生する所
 - ・ワイヤレス機の場合、受光部に直接太陽光や強い光が当たる所
 - ・高周波に影響される機器のある所（TV およびラジオ等の近傍）
 - ・ドレンの排水がとれない所
 - ・性能や機能等に影響をおよぼす原因になります。
- エアコンの下部には、濡れて困るものは置かない。
湿度が80％以上の時や、ドレン排水が詰まった場合に、室内ユニットから霧が滴下し損害が生じることがあります。
- 長期使用で傷んだままの据付けを使用しない。
傷んだ状態で放置するとユニットの落下につながり、ケガなどの原因になることがあります。
- ユニット近くで溶接作業を行う場合は十分注意し、ユニット内へのスパッタの進入を防止する。
溶接作業時に発生するスパッタがユニットにあたった場合、ドレンパンなどに損傷（ピンホール）をあたえ、水漏れなどの原因になることがあります。ユニット内へのスパッタの進入を防ぐため梱包状態のままとしておくか、覆いなどにより必ずカバーをしてください。
- ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管する。
不確実な場合、屋内に浸水し、家財などを濡らす原因になることがあります。
- GHP（ガスヒートポンプ）の場合、室外ユニットの排気ドレン管と室内ユニットの排水ドレン管は共用しない。
室内に有毒ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。
- 冷媒配管工事後は窒素ガスによる気密試験を行い、漏れのないことを確認してください。
万一、狭い部屋に冷媒ガスが漏洩して限界温度を超えると酸欠事故の原因となることがあります。
- ドレン配管は下り勾配（1/100以上）とし、途中山越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。
試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。
- 冷媒配管の断熱は結露しないように確実に行う。
不完全な断熱施工を行うと配管など表面が結露して、露たれなどを発生し、天井・床その他、大切なものを濡らす原因になることがあります。
- 室外ユニットは、小動物のすみかになるような場所に設置しない。
小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発煙・発火の原因になることがあります。
また、お客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。
- 製品の運搬は十分注意して行う。
20kg以上の製品は原則として2人以上で行ってください。PPバンドなど所定の位置以外をもって製品を動かさないで下さい。
素手でフィンなどに触れるとケガをする場合がありますので保護器具をご使用ください。
- 梱包材の処理は確実に行う。
梱包材にクギなどの金属あるいは、木片などを使用していますので放置状態にしますとケガをする場合があります。
- エアフィルタを必ず取付ける。
内部に油・ゴミなどが詰まり、故障の原因になることがあります。
- 濡れた手でスイッチを操作しない。
感電の原因になることがあります。
- 運転中の冷媒配管を素手で触れない。
運転中の冷媒配管は流れる冷媒の状態により低温と高温になります。素手で触れると凍傷や、やけどになることがあります。
- エアコンを水洗いしない。
感電の原因になることがあります。
- 運転停止後、すぐに電源を切らない。
必ず5分以上待ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。
- 電源ブレーカによるエアコンの運転や停止をしない。
火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。

③据付け前の準備

- 吊りボルト長さが長くなる場合は耐震補強を実施してください。
 - システム天井（グリッド天井・ライン天井）の場合
吊り長さ（吊りボルト長さ）500mm以上又は天井ふところ高さ700mm以上の場合に耐震プレースを設置する。
 - 強度が充分にある天井面に設置され直接スラブから吊り下げる場合
吊り長さ（吊りボルト長さ）1000mm以上の場合に耐震プレースを設置する。
- 吊りボルト・ナット・バネ座金（M10）を6組現地に手配してください。

<吊りボルト位置>



機種	項目	A
1083		1270
1683, 2103		1640

④室内ユニットの据付け

据付

〈吊り込み〉

- ユニットを吊り込んでください。

水平度の調整

お願い

- 水準器を使用するか、下記の要領で水平度の調整を行なってください。

○本体を据え付けたとき、本体と天井穴の寸法が出ないときは、据付金具が長穴になっていますので調整してください。

配管側をさがりぎみにしてください。

○水平度がでないかフロートスイッチの誤作動あるいは不動作の原因となります。

（梱包金具について）

梱包金具（4コ）はユニットの据え付けには不要ですので取り外してください。

金具を取り外したあと、ネジのみ再組み付けてください。（ダクトフランジ固定用）

〈吊りボルト固定方法〉

- 下図のいずれかの方法で吊りボルトを固定してください。

吊りボルトM10



電気配線工事説明書 外気処理ユニット(吹出温度制御)

PJD012D084

202006

電気配線工事は電気設備技術基準及び内線規程に従い、電力会社の認定工事店で行ってください。



安全上のご注意

- 作業前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しく作業してください。
 - 安全のため必ずお守りください。
 - 誤った作業、行為をしたときに生じる危害や損害を「△警告」と「△注意」に区分し、お守りいただく内容を「図記号」を使用し説明していますので、必ずお守りください。
 - 「△警告」「△注意」の意味
- | | |
|-----|--|
| △警告 | 守らないと、死亡または重大な障害にいたる危険性がある事項について説明しています。 |
| △注意 | 守らないと、傷害や物的損害ある事項について説明しています。 |
- ここで使われる“図記号”の意味は右のとおりです。
 - 下記のことを必ず守ってください。守らないときは、感電による火災、感電又は過熱、ショートによる火災のおそれがあります。

△警告

- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及び電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。
- 電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災の原因になります。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
- 接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。
- 室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。
- カバーの取付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災や感電の原因になります。
- 別売品は、必ず当社指定の部品を使用する。また、取付けは専門業者に依頼する。
- ご自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災などの原因になります。
- 改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。
- 修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
- エアコンを移動再設置の場合は、販売店または専門業者に相談する。
- 据付けに不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
- 室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF する。
- 点検・修理にあたって、電源ブレーカが ON のままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。
- 元電源を切った後に電気工事をする。
- 感電、故障や動作不良の原因になります。

△注意

- アース（接地）を確実に行う。
- アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電や火災の原因になることがあります。
- 電源には必ず漏電遮断器（高調波対応品）を取付ける。
- 漏電遮断器が取付けられていないと感電や火災の原因になることがあります。
- 正しい容量の全極遮断するブレーカ（漏電遮断器・手元開閉器（開閉器+B 種ヒューズ）・配線遮断器）を使用する。
- 不適切な容量のブレーカを使用すると故障や火災の原因になることがあります。
- 正しい容量のヒューズ以外は使用しない。
- 針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。
- 電源配線は、電流量に合った規格品の配線を使用する。
- 漏電や発熱・火災などの原因になることがあります。
- 室内外接続用端子台および電源用端子台に単線とより線を併用しない。
- また、異なったサイズの単線またはより線を併用しない。
- 端子台のねじゆるみや接触不良が生じ、発煙・発火の原因になることがあります。
- 運転停止後、すぐに電源を切らない。
- 必ず5分以上待ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。
- 電源ブレーカによるエアコンの運転や停止をしない。
- 火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。

- 本機に補助電気ヒータの取付けは不可です。

①電源配線接続

電源仕様

- 室内ユニットを個別に電源に接続する場合

形式	漏電遮断器定格	開閉器容量	ヒューズ	配線サイズ				
				電源線太さ	配線 の長さ	信号線	リモコン線	アース線
1083	15A 30mA 0.1sec	30A	15A	2.0mm ² × 2	87m	0.75 ~	0.3mm ² × 2 心	2.0mm ²
1683,2103					48m	1.25mm ² × 2		

- 注 1. 配線こう長は、電圧降下を 2% とした場合を示します。上表の配線こう長を越える場合は、内線規程に従い、配線太さを見直してください。
- 注 2. リモコン線の延長距離が 100m を越える場合は、③リモコンの取付けに従い、配線太さを見直してください。

- 複数の室内ユニットを一つの電源に接続する場合

室内機 合計電流	配線太さ (mm ²)	配線こう長 (m)	配線用遮断器 定格電流
7A以下	2	21	20A
11A以下	3.5	21	20A
12A以下	5.5	33	20A
16A以下	5.5	24	30A
19A以下	5.5	20	40A
22A以下	8	27	40A
28A以下	8	21	50A

- 注 1. 表中のこう長は、室内ユニットを直列に接続した場合の値を示します。また、室内ユニット合計電流別に電圧降下を2%以内とした場合の配線太さとかう長を示しています。電流が左表の値を超える場合、内線規程に従い配線太さを見直してください。
- 注 2. サービス時（電源OFF時）のため、別の冷媒配管システムの室内機を同一電源とすることは避けてください。

漏電遮断器の定格感度電流は、下記計算式と判定方法を参照ください。

- 注 3. 下記に示す計算式は目安であり、現地設備、工事内容により異なる場合があります。漏電遮断器が頻繁に作動する場合は、現地設備、工事内容に適した漏電遮断器を選定してください。

<計算式> 必要感度電流 = (各室内機の機種係数 ×台数) の合計値 + (配線係数×配線長[km])

<機種係数>

機種	係数
FDT,FDTc	3.5
FDTW,FDTs,FDR,FDU,FDE,FDK,FDU-F	2.5
その他	1

<配線係数>

電源配線径	係数
2.0mm ²	50
3.5mm ²	60
5.5mm ²	60
8.0mm ²	60

<判定方法>

- (i) 必要感度電流 ≤ 30 定格感度電流 30mA (0.1s以下) 品をご使用ください。
- (ii) 30 < 必要感度電流 ≤ 100 原則、必要感度電流が 30mA 以下となるよう漏電遮断器の系統分割をしてください。系統分割が難しい場合は、接地抵抗値が内線規程に基づいた値以下となる様確実に接地工事を行った場合に限り、定格感度電流 100mA (0.1s以下) 品の使用が可能です。
- (iii) 100 < 必要感度電流 漏電遮断器の系統分割（追加）が必要です。

冷暖フリーマルチの場合

分流コントローラの配線

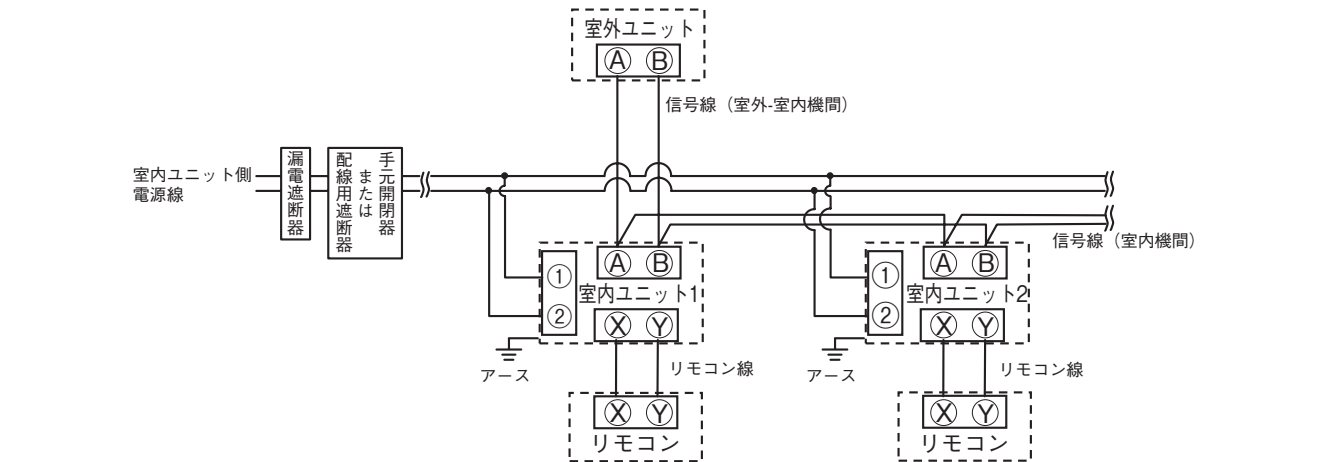
- 本ユニットを冷暖フリーマルチとして使用の場合は分流コントローラ（別売品）に付属の据付説明書をご覧ください。

②アドレス設定

アドレス設定は、(1) 手動アドレス設定、(2) 自動アドレス設定 (3) リモコンアドレス変更の 3 つ設定方法ができます。上記 3 項目については、室外ユニットに付属の説明書をご覧ください。

①電源・室内外配線の接続

- 電気工事は電力会社の認定工事店で行ってください。本配線仕様は、下記に基づいて決定しています。
- ①配線は銅線以外のものを使用しないでください。
- ②電源は、室外ユニット、室内ユニット各々別電源としてください。
- ③電気ヒータ（別売品）はなしにて記載してあります。
- 注：電気ヒータを組込む場合は、電源仕様・配線仕様および配線本数が異なりますので、ご注意ください。
- ④同一系統内の室内ユニットの電源は、必ず全て同時 ON、同時 OFF になるようにしてください。
- アース線は室内外接続線及び室内ユニット間配線の接続前に接続してください。また、アース線は室内外接続線より長くし、アース線に力がかからないようにしてください。
- 電源は工事が完了するまで入れないでください。
- D 種接地工事を必ず行ってください。
- 端子台への接続は、丸型圧着端子を接続してください。
- 専用の分岐回路を用い、他の機器と併用しないでください。併用した場合、電源ブレーカ落ちによる二次災害は生じる恐れがあります。
- 機種毎に設定された過電流及び漏洩遮断器を設置してください。
- 室内外の信号線は途中接続しないでください。途中接続した場合に水が浸入すると、対地間絶縁不良や途中接続部の接触不良をまねき、通信異常の原因となります。（万一、途中接続する場合には、絶対に水が浸入しないような処置を行ってください。）
- 天井裏内の配線（電源・リモコン・室内外接続線など）はネズミ等により、かじられ切断することもありますので、なるべく鉄管等の保護管内に通してください。
- 室内ユニットに接続する電源線は 3.5mm² まで使用可能です。5.5mm² 以上の配線を使用する場合は、専用のブルボックスを使用し、室内ユニットへ分岐してください。
- 信号線と電源線の接続を間違えますと全ての基板が焼損する場合がありますので、ご注意ください。
- ① A-B 信号線に誤って、200V 電源を接続しても初めの 1 回は保護します。
- ②電源投入 15 分経過後リモコンからユニット No.(アドレス) が確認できない場合は、全ての信号線を確認して誤接続を修復してください。
- ③焼損基板のジャンパー線 J10SL1 を切り、コネクタ CnK(黄) CnK1(白) を CnK2(黒) に差し替える。
- ④ A-B 端子台から基板までの配線に異常があれば交換してください。
- 室内外ユニットの外部では、リモコン線と電源線が直接触れないように施工してください。
- リモコン用端子台には、200V 電源を絶対に接続しないでください。故障の原因となります。
- ユニット間配線・アース線およびリモコン線の接続
- ①ユニット間配線・アース線およびリモコン線の接続は、制御箱内の電源側端子台、信号側端子台に番号を合わせて接続してください。また、アース線は、電源側端子台アース線に接続してください。
- ②電源には必ず漏洩遮断器を取付けて下さい。漏洩遮断器は、インバータ回路用遮断器（三菱電機製 NV-C シリーズまたは、その同等品）を選定してください。
- ③漏洩遮断器が地絡保護専用の場合には、漏洩遮断器と直列に手元遮断器（開閉器 +B 種ヒューズ）または、配線用遮断器が必要となります。
- ④手元開閉器はユニットの近傍に設置ください。
- 配線の接続はねじの緩みがないように確実に行ってください。また、制御箱内のコネクタの抜けや端子外れがないことを確認してください。



③リモコンの取付け（別売部品）

- 次の位置へ取付けないでください。

- 直射日光の当たる所
- 発熱器具に近い所
- 湿気の多い所、水が飛散する所
- 取付面が発熱・結露する所
- 油の飛沫や蒸気が直接触れる所
- 取付面の凹凸がある所

リモコン取付・配線

- ①リモコンの取付けは、リモコン付属の説明書に従ってください。
- ②リモコン線は、0.3mm² × 2 心の電線またはケーブルを使用してください。（現地手配）
- ③リモコン線の総延長は 600m です。
- 延長距離が 100m を超える場合は、下記サイズに変更してください。但し、リモコンケース内を通る配線は最大 0.5mm² 以下とし、リモコン外部の近傍で配線接続により、サイズを変更してください。
- 100 ~ 200m 以内・・・0.5mm² × 2 心
- 300m 以内・・・0.75mm² × 2 心
- 400m 以内・・・1.25mm² × 2 心
- 600m 以内・・・2.0mm² × 2 心
- ④誤動作する場合がありますので、多芯ケーブルの使用は避けてください。
- ⑤リモコン線はアース（建物の鉄骨部分または金属など）からできるだけ離してください。
- ⑥リモコン線は確実にリモコンと室内ユニットの端子台に接続してください。（極性はありません）

1 リモコンによる複数台室内ユニット制御

- ① 1 つのリモコンで複数台のユニット（最大 16 台）をグループ制御できます。
- 同一モード、同一室温設定で運転します。
- ②グループ制御用に各室内ユニット間を 2 心のリモコン線にて渡り配線してください。
- ③室内・室外 No. を手動アドレス設定にてセットしてください。
- 室内ユニット基板上のロータリー SW1、SW2 により、室内 No. を重複しないように設定してください。
- 室外ユニットの室内 No. 設定も必要です。忘れずに設定してください。
- ④右図のように室外ユニットが複数台の場合でもリモコン複数台制御可能です。

電源投入後、リモコンのエアコン No を押すと室内アドレスが表示されますので、▲▼ ボタンで接続されている室内アドレスがリモコンに表示されることを、必ず確認してください。

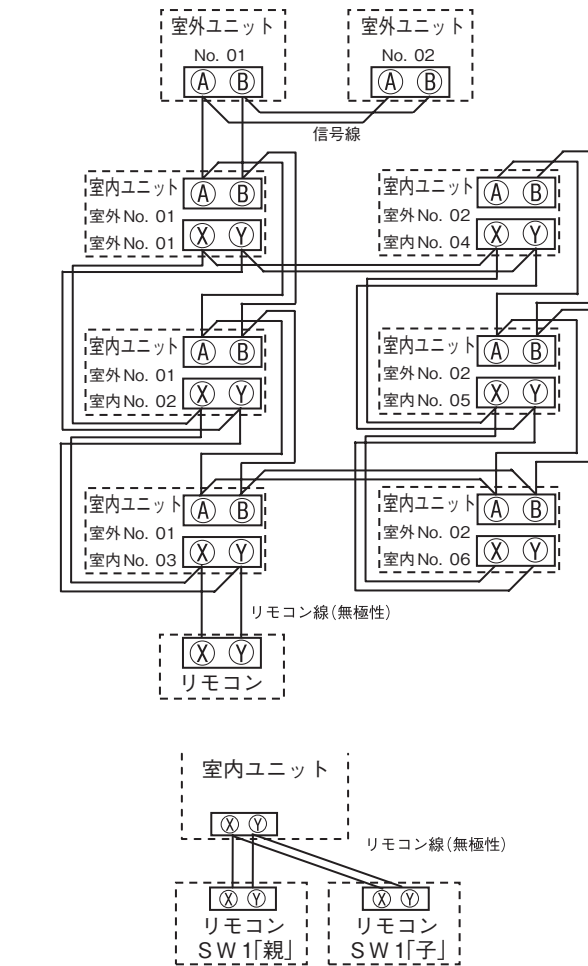
室内ユニット確認方法

- エアコン No. が表示されている時に運転切換ボタンを押すとその No. の室内ユニットが送風運転します。（表示例：「内 000 送風」）
- 再度運転切換ボタンを押すと、送風運転を停止します。
- 但し、エアコンが運転中の場合は無効です。

複数リモコン使用時の親子設定

- 室内 1 台（又は 1 グループ）に対して、最大 2 個までリモコンを接続できます。後操作優先で運転します。
- ワイヤードリモコン 2 台、あるいはワイヤードリモコン＋ワイヤレスキット、あるいはワイヤレスキット 2 台のいずれかの組合せができます。

- ①子リモコンの切換えスイッチ（ワイヤードリモコン:SW1、ワイヤレスキット:SW1-2）を「子」に設定してください。初期設定は「親」設定です。
- 注意 リモコンセンサ有効設定は親リモコンのみ可能です。親リモコンを室温検知させる位置に取付けてください。



スイッチ	設定	機能内容
ワイヤードリモコン: SW1	親	親リモコン
ワイヤレスキット: SW1-2	子	子リモコン

④リモコンによる機能設定

機能設定

●リモコンと室内ユニットの各機能は、リモコンと室内ユニットを接続した際に、標準的な使い方である初期設定に自動設定されます。
標準的な使い方をやる場合は、設定の変更は不要です。

但し、グリル昇降設定や、「○」印の初期設定を変更したい場合は、その機能番号の項目のみ、設定を変更してください。

機能設定のながれは、右記の通りです。
設定方法の詳細は、リモコンの据付説明書をご覧ください。

グリル自動昇降パネル使用時のご注意

初期設定では、リモコンはグリル昇降無効の設定となっています。
グリル自動昇降パネルをご使用の場合は、必ずグリル昇降有効の設定をしてください。
据付地域の電源周波数に合わせ、50Hz 地区または 60Hz 地区のどちらかを選んで設定してください。

【グリル昇降有効設定のしかた(簡易設定)】

1. エアコン停止状態で、**セッ** ボタンと **グリル昇降** ボタンを同時に長押ししてください。
表示が「昇降無効」になります。

2. **▲** または **▼** ボタンにより設定を選択してください。
表示:「昇降無効」⇔「有効 50Hz」⇔「有効 60Hz」

3. **セッ** ボタンを押す
表示が「設定完了」となります。その後リモコンは停止状態に戻ります。

【機能設定のながれ】

開始 : エアコン停止状態で**セッ**ト**ト**運転**切**換ボタン同時 3 秒押し

確定 : **セッ**トボタンを押す

戻る : リ**セッ**トボタンを押す

選択 : **▲** **▼**ボタンを押す

終了 : **運**転**／**停**止**ボタンを押す

(設定の途中でても終了しますが、設定が完了していないものは無効になります。)

「○」: 初期設定

「※」: 自動判別

設定方法の詳細は、リモコンの据付説明書をご覧ください。

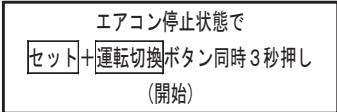
注1:「※」印の初期設定は、接続される室内ユニット及び室外ユニットにより異なり、下記の通り自動判別されます。

機能番号	項目	初期設定	機種
リモコン機能02	自動運転設定	自動運転有効	「自動」モード選択可能な機種
		自動運転無効	「自動」モードの無い機種
リモコン機能06	風量切換	風量切換有効	室内ファンタップが2速又は3速の機種
		風量切換無効	室内ファンタップが1速のみの機種
リモコン機能07	風向切換	風向切換有効	オートシングルルーハ搭載機種
		風向切換無効	その他
リモコン機能13	室内ファン	3速Hi-ME・LO	室内機ファンタップ3速の機種
		2速Hi-L・O	室内機ファンタップ2速の機種
		2速Hi-M・E	室内機ファンタップ1速のみの機種
リモコン機能14	ルーハ制御設定	ルーハ4位置停止	床置FDF以外のオートシングルルーハ搭載機種
リモコン機能04		ルーハフリー停止	床置FDF
リモコン機能15	冷専／ヒーボン	ヒーボン	ヒーボン機
		冷専	冷専機
室内機能17	外機制御	圧力制御標準	給気処理室内ユニットを接続すると、圧力制御切換に自動的に設定されます。
		圧力制御切換	給気処理室内機

注2:高天井設定時のファンタップ

ファンタップ	急・強・弱	室内風量設定	急・強
標準	Hi・Me・Lo	Hi・Lo	Hi・Me
高天井設定	UH・Hi・Me	UH・M・e	UH・Hi

機種によって、初期設定が高天井設定の機種もあります。



機能設定

リモコン機能	室内機能	室内ユニット複数台接続時のみ 室内ユニットNo.選択
01 グリル昇降設定	昇降無効 ○ 有効50Hz 有効60Hz	内000 内001 内002 内003 内004
02 自動運転設定	自動運転有効 ※ 自動運転無効 ※	
03 温度設定	温度設定有効 ○ 温度設定禁止	
04 運転切換	運転切換有効 ○ 運転切換禁止	
05 運転／停止	運転／停止有効 ○ 運転／停止禁止	
06 風量切換	風量切換有効 ※ 風量切換禁止	
07 風向切換	風向切換有効 ※ 風向切換禁止	
08 タイマー	タイマー有効 ○ タイマー禁止	
09 リモコンセリ設定	リモコンセリ無効 ○ リモコンセリ有効	
10 停電復帰設定	停電復帰無効 ○ 停電復帰有効	
11 換気設定	換気なし ○ 換気運動 換気運動なし	
12 温度範囲設定	表示変更有り ○ 表示変更無し	
13 室内ファン	3速Hi-ME・LO ※ 2速Hi-L・O ※ 2速Hi-M・E ※ 1速 ※	
14 ルーハ制御設定	ルーハ4位置停止 ※ ルーハフリー停止 ※	
15 冷専／ヒーボン	ヒーボン ※ 冷専 ※	
16 外部入力設定	一台運転 ○ 全台同一運転	
17 室温表示設定	室温表示無し ○ 室温表示有り	
18 暖房準備表示	表示有り ○ 表示無し	

各制御の詳細は、技術資料等でご確認ください。

設定内容を記録して保管してください。

注2

180時間でフィルターサインを表示します。
600時間でフィルターサインを表示します。
1000時間でフィルターサインを表示します。
1000時間でフィルターサインを表示し、その後、24時間経過したら強制停止します。

室内機能「04ルーハ制御設定」を変更する場合は、リモコン機能「14ルーハ制御設定」も変更してください。
ルーハの停止位置は、4位置より選択します。
ルーハの停止位置は、任意の位置に停止します。

室内機能「04ルーハ制御設定」を変更する場合は、リモコン機能「14ルーハ制御設定」も変更してください。
ルーハの停止位置は、4位置より選択します。
ルーハの停止位置は、任意の位置に停止します。

運転許可／禁止制御を有効にします。

(マルチ室内ユニットのみ)
マルチ室内ユニットの場合、同一室外ユニットに接続された全室内ユニットを緊急停止させる時に使用します。
遠方発停端子「CNT-6」から停止信号が入った場合、全室内ユニットが緊急停止します。
暖房時の設定温度を+3.0℃補正します。
暖房時の設定温度を+2.0℃補正します。
暖房時の設定温度を+1.0℃補正します。

室内ユニットの吸込温度を+2.0℃補正します。
室内ユニットの吸込温度を+1.5℃補正します。
室内ユニットの吸込温度を+1.0℃補正します。

室内ユニットの吸込温度を-1.0℃補正します。
室内ユニットの吸込温度を-1.5℃補正します。
室内ユニットの吸込温度を-2.0℃補正します。

暖房サーモOFF時、弱風で運転します。
暖房サーモOFF時、設定風量で運転します。
電氣集塵機を取り付けた場合は「設定風量」に設定してください。
暖房サーモOFF時、間欠運転します。
暖房サーモOFF時、ファンは停止します。
リモコンセリ有効時は、自動的に「停止」に設定されます。
本体サーモの時は、設定しないでください。

フロスト防止制御を動作させる室内熱交換温度の切換。

シングル機のみ有効
フロスト防止制御時に、室内ファンタップを上げます。

冷房・除湿時ドレンポンP ON
冷房・除湿+暖房時ドレンポンP ON
冷房・除湿+暖房+送風時ドレンポンP ON
冷房・除湿+送風時ドレンポンP ON

冷房停止後、ファン残留運転なし。
0.5時間
冷房停止後、1時間ファン残留運転する。
冷房停止後、6時間ファン残留運転する。

暖房停止、または暖房サーモOFF後、ファン残留運転なし。
0.5時間
暖房停止、または暖房サーモOFF後、2時間ファン残留運転する。
暖房停止、または暖房サーモOFF後、6時間ファン残留運転する。

暖房停止、または暖房サーモOFF時、ファンは20分OFF5分弱風の間欠運転。
暖房停止、または暖房サーモOFF時、ファンは5分OFF5分弱風の間欠運転。

外気処理室内ユニットを接続すると圧力制御標準に自動的に設定されます。
給気処理室内ユニットを接続すると、圧力制御切換に自動的に設定されます。

注)外気処理室内ユニットでは(17)外機制御は圧力制御標準です。

5

6

⑤試運転

冷房試運転方法

リモコンを次の手順で操作してください。

1. 冷房試運転の開始

- ① **運**転**／**停**止** ボタンを押して、運転します。
- ② **運**転**切**換 ボタンにより、「冷房」を選択します。
- ③ **試**運転 ボタンを 3 秒以上押しします。
表示が、「冷房試運転▼」となります。
- ④ 「冷房試運転▼」の表示で、**セッ**ト ボタンを押すと、冷房試運転を開始します。
表示は、「冷房試運転」となります。

運転データの確認方法

リモコン操作により、運転データの確認ができます。

【操作手順】

1. 点検ボタンを押します。
表示が「運転データ表示▼」となります。
2. 「運転データ表示▼」の表示で、**セッ**ト ボタンを押します。
3. リモコンに接続されている室内ユニットが 1 台の場合、「データ確認中」表示となり、(データを読み込む間点滅表示)
その後、運転データの 01 番が表示されます。
7 番へお進みください。
4. リモコンに接続されている室内ユニットが複数台の場合、接続されている室内ユニットの中で、最も小さい室内アドレスが表示されます。
【例】「室内機選択◆」(1秒間点灯)「内000▲」(点滅)
5. **▲**/**▼** ボタンで、表示したい室内アドレスを選びます。
6. **セッ**トにより確定します。(室内アドレスが点滅から点灯に変わります。)
「内001」(選択した室内アドレスを 2秒間点灯)
↓
「データ確認中」(データを読み込む間点滅表示)
その後、運転データの 01 番が表示されます。
7. **▲**/**▼** ボタンにより、現在の運転データを確認できます。
表示される項目は右記の通りです。
※機種により該当するデータがないものは、その項目は表示されません。
8. 室内ユニットを変更する場合は、**エ**アコン**No** ボタンを押すことにより、室内ユニット選択表示に戻ります。
9. **運**転**／**停**止** ボタンを押すと、終了します。

設定の途中で、**リ**セットボタンを押すと、一回前の設定画面に戻ります。

○運転データの確認は、リモコン 2 台で室内機を運転する場合、親リモコンのみ操作可能です。(子リモコンからの操作はできません。)

ドレンポンプ試運転方法 (ドレンポンプはオプションです)

ドレンポンプ運転がリモコン操作により可能です。

リモコンを次の手順で操作してください。

1. ドレンポンプ強制運転の開始

- ① **試**運転 ボタンを 3 秒以上押しします。表示が「冷房試運転▼」となります。
- ② **▼** ボタンを一度押し、「ドレンポンプ運転◆」を表示させます。
- ③ **セッ**ト ボタンを押すと、ドレンポンプ運転を開始します。表示:「**セッ**ト」で停止

2. ドレンポンプ運転の解除

- ① **セッ**ト ボタン又は、**運**転**／**停**止** ボタンを押すと、ドレンポンプ (オプション) 強制運転を解除します。エアコンは停止状態となります。
- リモコン 2 台で室内ユニットを運転する場合、親リモコンのみ操作可能です。(子リモコンからの操作はできません。)

⑥制御の切換

●室内ユニットの制御内容を下記方法にて切換可能です。(□は工場出荷時の設定)

スイッチNo.	制御内容
SW1	室内アドレス(10位)
SW2	室内アドレス(1位)
SW3	室外アドレス(10位)
SW4	室外アドレス(1位)
SW5-1	ON 旧SL通信仕様固定
SW5-2	OFF 新SL/旧SL通信仕様自動判別
SW6-1~4	室内アドレス(100位)
SW7-1	ON 運転チェックドレンポンプ運転試
	OFF 通常運転

注1: 通信方式であるスーパーリンクの仕様が選択できます。

旧 SL: ビル空調 2LX シリーズ、ガスヒートポンプ M7 シリーズ以前
新 SL: ビル空調 3LX シリーズ、ガスヒートポンプ M8 シリーズ以降
SW5-1 が OFF (工場出荷設定) の場合は、通信仕様 (新 SL/ 旧 SL) を自動判別します。
旧 SL 通信仕様固定で使用する場合は、SW5-1 を ON にしてください。
各通信仕様の特徴、制限は室外ユニットに付属の据付説明書をご覧ください。

7

- 外気処理ユニットはリモコンで温度下限を15℃に必ず設定してください。、⑨リモコンでの温度下限設定方法を参照ください。
- 外気処理ユニットはリモコンセンサの信号は受け付けませんのでリモコンセンサは必ず無効にしてください。
- 外気処理ユニットは(13)ドレンポンプを必ず冷房除湿+暖房時ドレンポンプONに設定してください。
- 外気処理ユニットは(15)暖房ファン運転を必ず0.5時間残留運転に設定してください。

各制御の詳細は、技術資料等でご確認ください。

設定内容を記録して保管してください。

リモコン機能	室内機能	室内ユニット複数台接続時のみ 室内ユニットNo.選択
01 グリル昇降設定	昇降無効 ○ 有効50Hz 有効60Hz	内000 内001 内002 内003 内004
02 自動運転設定	自動運転有効 ※ 自動運転無効 ※	
03 温度設定	温度設定有効 ○ 温度設定禁止	
04 運転切換	運転切換有効 ○ 運転切換禁止	
05 運転／停止	運転／停止有効 ○ 運転／停止禁止	
06 風量切換	風量切換有効 ※ 風量切換禁止	
07 風向切換	風向切換有効 ※ 風向切換禁止	
08 タイマー	タイマー有効 ○ タイマー禁止	
09 リモコンセリ設定	リモコンセリ無効 ○ リモコンセリ有効	
10 停電復帰設定	停電復帰無効 ○ 停電復帰有効	
11 換気設定	換気なし ○ 換気運動 換気運動なし	
12 温度範囲設定	表示変更有り ○ 表示変更無し	
13 室内ファン	3速Hi-ME・LO ※ 2速Hi-L・O ※ 2速Hi-M・E ※ 1速 ※	
14 ルーハ制御設定	ルーハ4位置停止 ※ ルーハフリー停止 ※	
15 冷専／ヒーボン	ヒーボン ※ 冷専 ※	
16 外部入力設定	一台運転 ○ 全台同一運転	
17 室温表示設定	室温表示無し ○ 室温表示有り	
18 暖房準備表示	表示有り ○ 表示無し	

各制御の詳細は、技術資料等でご確認ください。

設定内容を記録して保管してください。

注2

180時間でフィルターサインを表示します。
600時間でフィルターサインを表示します。
1000時間でフィルターサインを表示します。
1000時間でフィルターサインを表示し、その後、24時間経過したら強制停止します。

室内機能「04ルーハ制御設定」を変更する場合は、リモコン機能「14ルーハ制御設定」も変更してください。
ルーハの停止位置は、4位置より選択します。
ルーハの停止位置は、任意の位置に停止します。

室内機能「04ルーハ制御設定」を変更する場合は、リモコン機能「14ルーハ制御設定」も変更してください。
ルーハの停止位置は、4位置より選択します。
ルーハの停止位置は、任意の位置に停止します。

運転許可／禁止制御を有効にします。

(マルチ室内ユニットのみ)
マルチ室内ユニットの場合、同一室外ユニットに接続された全室内ユニットを緊急停止させる時に使用します。
遠方発停端子「CNT-6」から停止信号が入った場合、全室内ユニットが緊急停止します。
暖房時の設定温度を+3.0℃補正します。
暖房時の設定温度を+2.0℃補正します。
暖房時の設定温度を+1.0℃補正します。

室内ユニットの吸込温度を+2.0℃補正します。
室内ユニットの吸込温度を+1.5℃補正します。
室内ユニットの吸込温度を+1.0℃補正します。

室内ユニットの吸込温度を-1.0℃補正します。
室内ユニットの吸込温度を-1.5℃補正します。
室内ユニットの吸込温度を-2.0℃補正します。

暖房サーモOFF時、弱風で運転します。
暖房サーモOFF時、設定風量で運転します。
電氣集塵機を取り付けた場合は「設定風量」に設定してください。
暖房サーモOFF時、間欠運転します。
暖房サーモOFF時、ファンは停止します。
リモコンセリ有効時は、自動的に「停止」に設定されます。
本体サーモの時は、設定しないでください。

フロスト防止制御を動作させる室内熱交換温度の切換。

シングル機のみ有効
フロスト防止制御時に、室内ファンタップを上げます。

冷房・除湿時ドレンポンP ON
冷房・除湿+暖房時ドレンポンP ON
冷房・除湿+暖房+送風時ドレンポンP ON
冷房・除湿+送風時ドレンポンP ON

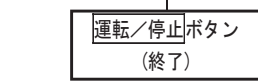
冷房停止後、ファン残留運転なし。
0.5時間
冷房停止後、1時間ファン残留運転する。
冷房停止後、6時間ファン残留運転する。

暖房停止、または暖房サーモOFF後、ファン残留運転なし。
0.5時間
暖房停止、または暖房サーモOFF後、2時間ファン残留運転する。
暖房停止、または暖房サーモOFF後、6時間ファン残留運転する。

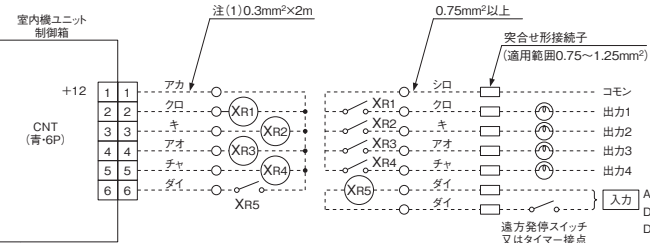
暖房停止、または暖房サーモOFF時、ファンは20分OFF5分弱風の間欠運転。
暖房停止、または暖房サーモOFF時、ファンは5分OFF5分弱風の間欠運転。

外気処理室内ユニットを接続すると圧力制御標準に自動的に設定されます。
給気処理室内ユニットを接続すると、圧力制御切換に自動的に設定されます。

注)外気処理室内ユニットでは(17)外機制御は圧力制御標準です。



⑦室内基板 CnT コネクタの機能



⑧故障診断方法

異常発生時の運転データを記憶し、リモコンから異常運転データの確認ができます。

データ項目は、⑥試運転の項目を表示します。

※機種により該当するデータがないものは、その項目は表示されません。

【操作手順】

1. 点検ボタンを押します。表示が「運転データ表示▼」となります。
2. **▼** ボタンを一度押し、「エラーデータ表示▲」に切換えます。
3. **セッ**ト ボタンを押すと、異常運転データ表示モードに入ります。
4. リモコンに接続されている室内ユニットが1台の場合は、以下の表示となります。
①異常履歴がある場合: エラーコードと「データ確認中」を表示します。
【例】[E8] (エラーコード)
「データ確認中」(データを読み込む間点滅表示)
続いて、データが表示されます。8へお進みください。
- ②異常履歴がない場合「異常なし」を3秒間表示し、本モードを終了します。
5. リモコンに接続されている室内ユニットが複数台の場合は、以下の表示となります。
①異常履歴がある場合: 接続されている室内ユニットの中で、最も小さい室内アドレス番号とその室内ユニットのエラーコードを表示します。
【例】[E8] 「内000▲」(点滅)
②異常履歴がない場合: アドレス番号表示のみとなります。
6. **▲**/**▼** ボタンで、表示したい室内アドレスを選びます。
7. **セッ**トにより確定します。(室内アドレスが点滅から点灯に変わります。)
- 【例】[E8]
「内000」(選択した室内アドレスを 2秒間点灯) → [E8]
「データ確認中」(データを読み込む間点滅表示) 続いて、データが表示されます。
異常履歴がない室内ユニットを選択した場合は、「異常なし」を3秒間表示し、室内アドレス表示に戻ります。

8. **▲**/**▼** ボタンにより、異常運転データを確認できます。

9. 室内ユニットを変更する場合は、**エ**アコン**No** ボタンを押すことにより、室内ユニット選択表示に戻ります。

10. **運**転**／**停**止** ボタンを押すと、終了します。設定の途中で、**リ**セットボタンを押すと、一回前の設定画面に戻ります。

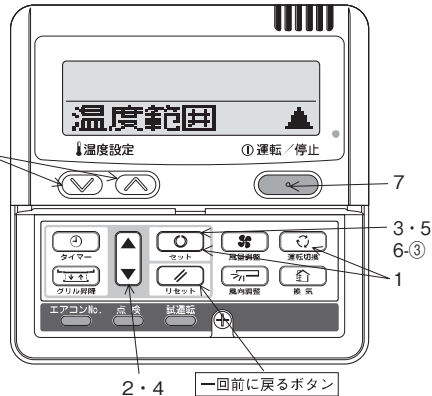
○異常運転データの確認は、リモコン 2 台で室内ユニットを運転する場合、親リモコンのみ操作可能です。(子リモコンからの操作はできません。)

⑨リモコンでの温度下限設定方法

●下限値の設定方法

1. エアコンを停止させて、**セッ**トと**運**転**切**換ボタンを同時に3秒以上押しします。
表示が「機能設定▼」となります。
2. **▼** ボタンを一度押し、「温度範囲▲」表示に切り換えます。
3. **セッ**ト ボタンを押して、温度範囲設定モードに入ります。
4. **▲**/**▼** ボタンにより、「下限設定▲」を選びます。
5. **セッ**ト ボタンを押して確定します。
6. 「下限設定▲」(冷房、除湿、送風時に有効となります。)
①表示:「V」で設定 → 「下限20℃V」
②温度設定 **▼**/**▲** ボタンにより、下限値15℃を選びます。表示例:「下限15℃V」(点滅)
③**セッ**ト ボタンを押して確定します。表示例:「下限15℃」(2秒間点灯)
確定した下限値を2秒間点灯後、表示は「下限設定▼」に戻ります。
7. **運**転**／**停**止** ボタンを押して、終了します。

・設定の途中で、**運**転**／**停**止** ボタンを押しても終了します。但し、設定が完了していない内容は無効となりますのでご注意ください。
・設定の途中で、**リ**セット ボタンを押すと、一回前の設定画面に戻ります。



PJD012D084

8